第 18 回ユネスコスクール全国大会
分科会詳細

第 1 分科会　　ユネスコスクールからひろがる国際交流

- 開催形式
  - ハイブリッド（対面会場：国際交流棟 国際会議室）
- 運営担当
  - ユネスコスクール支援大学間ネットワーク（ASPUnivNet）
- 登壇者

  【ファシリテーター】
  - 岡山大学　藤井浩樹

  【発表者】
  - 那須みふじ幼稚園　高橋明男
  - 関西創価高等学校　木幡智明
  - 板橋区立緑小学校　市之瀬輝明
  - 愛知教育大学　大鹿聖公
- 概要

  ユネスコスクール全国大会前日に行われる板橋区立緑小学校の授業公開のリフレクションを兼ねて、幼稚園・小学校・中・高等学校及び大学における国際交流の実践例を共有しながら意見交換する。海外の学校との交流や協働学習、地域や企業との連携、保護者のルーツを生かした学び等を通じて、子どもたちの異文化理解や ESD による問題解決型学習を促進する取組を紹介する。国際交流を教育活動にどのように組み込むか、また、持続可能な社会づくりの担い手をどのように育成していくかについて考える。

第 2 分科会　　ユネスコスクールの「？」を「！」に！好事例から学ぶ実践のヒント

- 開催形式
  - ハイブリッド（対面会場：国際交流棟 第 1 ミーティングルーム）
- 運営担当
  - ユネスコスクール教員 有志
- 登壇者
  - 横浜市立幸ヶ谷小学校
    細谷邦弘、宗像北斗
  - 高田中・高等学校
    マカイヴァ（川口）裕美子
  - 高槻中学校・高槻高等学校　横山貴之
  - 奈良教育大学　河野晋也
  - 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター　大安喜一
- 概要

  ユネスコスクールでは、ホールスクールアプローチの推進、国際プロジェクトへの参加、国際デーの実施等が推奨されている一方、実施方法がわからないという声や、校内体制づくりに課題を抱える学校も少な

くない。本分科会では、こうしたユネスコスクールの実践における「？」に着目し、特色ある好事例を通して、取組のきっかけや実践・継続のための工夫、校内外との連携について学ぶ。また、グループワークを通して、参加者それぞれが抱える悩みや課題を共有し、共通する課題について意見交換を行う。本分科会を通して、ユネスコスクールとしての活動を特別なものとして捉えるのではなく、各校が既に行っている教育活動や学校の特色と結び付けながら、無理なく継続・発展させていくための視点を共有する。そして、参加者一人ひとりが自校の「？」を「！」に変えるための具体的なヒントを持ち帰り、今後の実践や校内での新たな取組につなげることを目指す。

第 3 分科会　　サステナブルをもっとおもしろく、ESD とつくる体験
～ESD 大賞と大学の実践をとおして～（第 17 回 ESD 大賞授賞式）

- 開催形式
  - ハイブリッド（対面会場：センター棟 402 室）
- 運営担当
  - NPO 法人日本持続発展教育（ESD）推進フォーラム
- 登壇者

  【ファシリテーター】
  - 宮城教育大学名誉教授・NPO 法人日本持続発展教育推進フォーラム　見上一幸

  【発表者】
  - 大牟田市立明治小学校 伊藤 幸子
  - 北海道岩見沢農業高等学校　三品歩
  - 東京工科大学　関根謙一郎
  - NPO 法人日本持続発展教育推進フォーラム　岡山慶子
- 概要

本分科会では、「サステナブルをもっとおもしろく、ESD とつくる体験」をテーマに、第 16 回 ESD 大賞受賞校である小学校・高等学校の特色ある教育活動と、東京工科大学における実践を紹介する。各発表後の意見交換を通じて、学校種や立場を越えて ESD の多様なアプローチに触れ、今後の教育活動に生かせる新たな視点や気づきを得る機会とする。また、後半には「第 17 回 ESD 大賞」の授賞式を開催し、優れた取組を顕彰するとともに、その成果を広く発信することで、ESD のさらなる普及・発展につなげる。

第 4 分科会　　2030 年に向けた教育の未来を考えるワークショップ

- 開催形式
  - 対面のみ（対面会場：センター棟 409 室）
- 運営担当
  - 聖心女子大学
- 登壇者

【ファシリテーター】

- 阿部・入江・鬼澤・風巻・片岡・木間・永田・平澤・藤井・矢野

【全体司会】

- 平澤

- 概要

2023 年 11 月 23 日、第 42 回ユネスコ総会において、50 年ぶりに「ユネスコ教育勧告」が採択された。「ユネスコ教育勧告」は、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」と記されたユネスコ憲章前文に則ったものである。世界に目を向けてみると、協調・競争のみならず、分断・対立の様相を深めつつあり、混迷の度を増している。気候変動に伴う自然災害の激甚化等、予測困難性も高まっている。かかる状況の現在、「ユネスコ教育勧告」はわたしたちの心のとりでになり得るのかもしれない。第 4 分科会では、「2023 年ユネスコ教育勧告」について理解を深めることを目的としている。しかし、単に理解を深めるだけではなく、（今回初お披露目の）カード型教材に触れ、参加者みんなで対話をすることを大切にしていきたい。まずは、「2023 年ユネスコ教育勧告」はどのような想いが詰まっているのか、その理念や構成から考えていき、レクチャー後は「12 の学習目標」に焦点を当ててその背景にある考え方や教育実践とのつながりについて理解を深めていく。参加者が互いの経験や視点を共有しながら、どうしたら「平和で人権が保障され、持続可能な社会が実現するのか」、その目標に近づくために教育が果たす役割は何か、カード教材を通して考えていきたい。本分科会は、いわゆる教育関係者のみを対象としておらず、世代も問わない。今ここにいるみなさん一人ひとりが教育の担い手である。私たちは、地球という惑星に住む生き物の中の一つにすぎないが、考えることや声を発することができる。そんな私たちが考えていかれることは何か、参加者のみなさんと一緒に模索していきたい。

第 5 分科会　　国際機関（ユネスコ）の扉をノックしよう　※ ユース対象

- 開催形式
  - 対面のみ（対面会場：センター棟 415 室）
- 運営担当
  - 次世代ユネスコ国内委員会
- 登壇者

【ファシリテーター】

- 次世代ユネスコ国内委員会　川上寛人、中村心寧

【発表者】

- ユネスコ パリ本部/ニューヨーク事務所経験者　後藤優奈、佐藤啓明、野村紀帆、野村ミカエル介

- 概要

ユネスコ本部や地域事務所で働いた経験のある若者から、実際にどのような仕事をしていたのか、職場はどんな雰囲気なのか、海外ではどのように暮らしていたのかなど、リアルな体験を聞くことができる。国際機関で働くことを「自分とは遠い世界」と感じている人にも、「こんな仕事や働き方もあるんだ」と知

ってもらい、自分の将来や社会とのかかわり方について考え、視野を広げる機会とする。登壇者に直接質問したり、交流したりする時間も設ける。なお、本分科会は、主に児童生徒を対象とする。
※本分科会のチラシはこちら